

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE



小樽商科大学広報誌

vol.187

2020 SPRING

GAKUEN DAYORI

小樽商科大学 学園だより

新体制発足！



● CONTENTS ●

新学長挨拶.....	1
新副学長紹介.....	1
小樽商科大学同窓会 緑丘会理事長挨拶	2
創立百十周年記念募金ご寄附者ご芳名.....	3
商大生が活躍しています！.....	4

グリーンヒルプロジェクト.....	5
附属図書館がリニューアル・オープンしました！..	5
特別修学支援室の支援について.....	6
保健管理センターからのお知らせ.....	6
学生支援基金事業報告について.....	7

学長就任にあたって

令和2年4月1日より和田健夫前学長の後を受け、新学長に就任致しました。どうぞよろしくお願い致します。まず簡単に経歴についてお話しします。昭和60年に大学を卒業後、一旦民間企業に勤めました。その後、大学院に進学し、大学院修了後、道内他大学で助手として勤務し、平成元年に本学に赴任しました。それ以来30年以上にわたり小樽商科大学において教育、研究を続けてきました。その間、商学科長、国際交流センター長、国際連携本部長などを務めました。また、地域経済研究部の前身となる地域研究会において、道内経済の研究にも携わりました。

本学は建学以来、道内外に有為な人材を輩出してきました。人材育成は最大の地域貢献であります。今後もグローバル人材、すなわちグローバルに考え、ローカルに活躍できる人材の育成と輩出に努めたいと思います。令和3年4月から既存のグローバルマネジメント副専攻を基礎としたグローバルコースが設置されます。これを契機にグローバル教育のさらなる拡充に努めて行きたいと思います。本学は海外の26大学と協定を結んでおり、交換留学生を毎年20数名受け入れ、さらには海外からの入学者も多数います。キャンパスをより国際的な多様性をもった学びの場とすることも課題の一つです。

もう一つの地域貢献の柱は地域の課題を解決する研究です。北海道は人口減少が急速に進み、さらに地域経済の疲弊が進んでいます。本学は地域のシンクタンクとしての機能を強化し、小樽、後志のみならず、全道的な課題についても研究を進めるとともに、幅広く発信して行きたいと思います。研究面では海外の協定大学との協力や後述する3大学の経営統合がその強化に資するものといえます。

現在、本学は令和4年4月の帯広畜産大学、北見工業大学との経営統合に向け準備を進めています。3大学の経営



統合は北海道の地域的な課題の解決を目指すものです。また、本学にとっての新たな挑戦の一つともなります。距離的に離れた大学間の経営統合は日本の大学の在り方に一石を投じるだけでなく、遠隔地教育など将来の大学教育の在り方にも関係するものです。また、来年令和3年7月に本学は創立110周年を迎えます。これに向けた記念事業なども計画されており、本学の教育・研究の一層の発展の礎を確固たるものにするべく、寄附金を募るとともに準備を進めて行きたいと思います。

これまでも本学は環境の変化に的確に対応し、将来を見据えた変革を進めてきました。今後も本学は教育・研究の充実をはかりつつ、社会科学系の単科大学としての存在意義を高めて行きたいと思います。それには教職員、学生の皆様の協力が不可欠です。さらにはOB、OG、御父母の方々などすべての関係者のご支援が必要です。何卒よろしくお願い致します。

令和2年4月1日

第11代 小樽商科大学長

沢 真

新副学長紹介



総務・財務担当副学長
江頭 進

滋賀大学経済学部卒
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
研究分野 / 経済思想史、進化経済学、地域経済学
平成19年～小樽商科大学商学部教授（経済学科）
平成22年 商学部経済学科長
平成24年～学長特別補佐
平成28年～現職



教育担当副学長
鈴木 将史

北海道大学文学部卒
北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
研究分野 / ドイツ文学・ドイツ文化
平成14年～小樽商科大学言語センター教授
（個別言語部門ドイツ語系）
平成22年～言語センター長
平成26年～現職



大学評価・産学官連携等担当副学長
近藤 公彦

同志社大学商学部卒
神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
研究分野 / マーケティング
平成15年～小樽商科大学商学部教授（商学科）
平成22年～24年 大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻長
平成26年～現職

小樽商科大学新入学生に 対するメッセージ

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。私は卒業して半世紀になりますが、毎年4月を迎えますと皆さんと同じように希望に胸を膨らませて入学式に臨んだことを昨日のように思い出されます。商大は小樽の街と一体化し、昔も今も街の「商大」として親しまれています。国立大学では唯一の社会科学系単科大学で、小規模ではありますが、創立以来100余年にわたりグローバルな人材を北海道はもとより全国に送り出してきました。国際的な場で活躍しているOB・OGも少なくありません。商大の「実学」「語学」「品格」を重視した教育は、本学における教育の基本であり特徴でもあります。他の社会系大学と比べて商大が誇れる強みは何でしょうか？

例を挙げれば、

- ①女性の一層の活躍が期待される今日において、女子学生が4割以上しめている
- ②ベンチャーや起業・創業を後押しする大学院・アントレプレナーシップ専攻がある
- ③ゼミやクラブ活動が活発で充実しており、それを通して生涯の友との出会いがある
- ④留学生との交流や充実した海外留学制度を活用して多様性や国際性を学ぶ機会が多い

などがあります。

大学で何を学び、何を心得て巣立っていくのか、皆さんはどのようなプランを持っていますか？

先輩からの助言です。



第一に、学問を修めることはもちろんのこととして、皆さんには国際的視点を持ち、日本国内はもとより国際的な動向にも強い関心を持って欲しいということです。最近是一道内での就職を希望する方が増えているようですが、北海道の産業や経済の発展には、今まで以上に国際的な繋がりがが必要です。道内で職を求める場合であってもグローバルな視点が不可欠な時代になっています。

第二は、緑丘での4年間に、勉学に加えて、これはという経験を積んで欲しいということです。スポーツでも文化的なことでも良いのです。夢中になって打ち込んだ経験が社会に出てから大きな自信になるはずです。

商大には、小規模な単科大学だからこそ育まれてきた「学生、教職員、卒業生の強い一体感」があります。この緑丘で培われた強い絆が社会に出た後も続き、それが皆さんの財産となるはずです。

皆さんは今、真っ白なキャンパスの前に立っています。有意義な4年間を過ごし、自分自身の絵を思いっきり描いてください。

公益社団法人 緑丘会
理事長 島崎 憲明



小樽商科大学同窓会 緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年（昭和14年）に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル・57階に置き、全国に24の支部、会員4,500名余を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会ともども母校の基盤向上のために、年間2千万円以上の規模で助成事業を行っております。

主な助成事業は次の通りです。

- ①学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業セミナー」の主催
- ②正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援
- ③国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及びTOEICの受験費用補助
- ④就職支援として就職アドバイザーの設置と就職活動資金の貸与等
- ⑤留学生の支援

創立百十周年記念募金ご寄附者ご芳名

本学では、令和3年7月に創立百十周年を迎えるにあたり、本学同窓会と連携し、目標額1億円として募金活動を行っております。
ご賛同いただいたたくさんの方々のご厚誼に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。
引き続き募金活動をおこなってまいりますので、皆様におかれましては、格別のご支援、ご協力をいただきたく、心よりお願い申し上げます。
(令和2年1月20日現在)

国立大学法人小樽商科大学 創立百十周年記念募金 ご寄附者ご芳名 (敬称略・アイウエオ順・匿名ご希望の方は除く)

個人の部	石黒 匡人 今堀 陽介	江頭 進 加藤 清美	加藤 朋行 加藤 睦洋	神田 孝夫 許 道	小嶋 稔 小島 陽介	小林 敏彦 齋藤 一朗	酒井 秀人 坂崎 喜茂	佐藤 一彦 佐藤 陽一	佐野 博之 下川 哲史	新保 雄司 辻 義人	畠中 勇 船津 秀樹	樹谷 孝 丸尾 太陽	丸山 亨介 山田 家正
------	----------------	---------------	----------------	--------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	---------------	---------------	----------------

創立百十周年記念募金 10万円以上寄附者ご芳名 (敬称略・アイウエオ順・匿名及び名前のみご希望の方は除く)

加藤 朋行	10万円	加藤 睦洋	10万円	小林 敏彦	20万円	山田 家正	100万円
-------	------	-------	------	-------	------	-------	-------

創立百十周年記念募金 法人ご芳名 (敬称略・アイウエオ順・名前のみご希望の場合は金額の記載なし)

阿部建設株式会社 一般社団法人小樽市医師会 大高酵素株式会社 大阪工部品株式会社 小樽ロータリークラブ 株式会社アカデミア 株式会社オルゴール堂ホールディングス 〔社長 柳田春義 平成18年 OBS 卒業〕	5万円 6万円	株式会社角一商会 株式会社かま栄 株式会社北一硝子 〔社長 浅原健蔵 昭和43年短大卒業〕 株式会社中央島電気 株式会社新倉屋 株式会社ロジネットジャパン 〔社外取締役 島崎憲明 昭和44年卒業〕 〔特別顧問 下斗米寛泰 昭和45年卒業〕	5万円 20万円 200万円	こだま交通株式会社 近藤工業株式会社 西條産業株式会社 杉商株式会社 税理士法人中央会計事務所 北海道信用金庫 〔代表理事会長 吉本淳一 昭和53年卒業〕	2万円 5万円	北海道中央バス株式会社 〔会長 平尾一彌 昭和41年卒業〕 〔社長 二階堂恭仁〕 北海道ワイン株式会社 〔社長 高村公宏 昭和60年卒業〕 モリカワ産業株式会社 山吹商工株式会社 有限会社大産業	30万円 5万円 5万円
--	------------	---	----------------------	---	------------	--	--------------------

公益財団法人小樽商科大学後援会 創立百十周年記念募金 ご寄附者ご芳名 (敬称略・卒年順・匿名ご希望の方は除く)

個人の部	菊池 正平 〔昭和17年卒業〕 河村 寿郎 荒木 俊彦 〔昭和19年卒業〕 田中 誠也 吉村 誠 〔昭和20年卒業〕 〔故〕荒川 博 梶原 昭七 関 正三 服部 道士 高崎 幸夫 〔昭和24年卒業〕 後藤 和則 田中 貢 上田 昭作 伊藤 崇二 笹原 栄 河井 昭夫 〔昭和26年卒業〕 野村 睦男 藤井 照市 藤本 忠四郎 泉 安治 石積 章 西田 重信 武知 弘記 綿 徳彦 高橋 栄夫 〔昭和29年卒業〕 中村 康吉 島村 稔 有澤 他 〔昭和30年卒業〕 塚本 秀夫 小川 幸夫 牧 秀雄 谷野 富夫	菊池 正平 富田 礼二 江川 勝治 海老名 節雄 柴田 勇吉 〔昭和30年短大卒業〕 中山 茂博 〔昭和31年卒業〕 鈴木 詢二 柴田 實 梶原 昭七 前田 次啓 大森 久雄 荒井 一 高崎 幸夫 中川 宏 石原 威 佐々木 茂 安部 盛之 蘭田 存弘 渡辺 弘弘 三浦 敏男 〔昭和31年短大卒業〕 細川 周作 麻柄 幸光 〔昭和32年卒業〕 上田 正憲 清水 卓治 富山 憲一 市川 健 柳原 高野 鈴木 市男 吉田 克己 高橋 武正 橋口 順次 横井 久 駿河 寛治 〔昭和33年卒業〕 藤野 茂夫 石井 忠雄 小林 敏男 平野 英一郎 澤田 隆夫	金榮 昭夫 上田 久幸 青木 匡光 木戸 茂 鈴木 清 佐竹 謙 計良 松宏 和之 木田 幸男 日景 久 北村 久淑 福島 久雄 〔昭和33年短大卒業〕 武田 知之 〔昭和34年卒業〕 浜田 幸雄 中尾 雄平 佐藤 幸雄 鯛物 二三男 大橋 吉哉 古田 雅一 手塚 寿一郎 黒川 博 村木 誠夫 佐藤 洋司 〔故〕細谷 芳芳 林 永正 川端 庸介 長川 寿一 高橋 眞一 木谷 隆 今井 正義 奥津 和男 内野 悟 北出 晃 山紫会会員一同 〔昭和34年卒業有志〕 末武 他 村形 重司 土門 勇治 野村 隆 野々村 正美	松山 修 梅野 卓男 秋田 幸男 鈴木 隆 竹之下 久義 小俣 勇 中野 孝一 関部 三男 田邊 靖雄 小野 邦夫 長倉 陽一 前田 浩 田辺 経治 〔昭和36年卒業〕 馬場 浩 〔故〕藤井 忠信 雀部 菊夫 工藤 康夫 岩崎 陽三 原 絢一 杉山 正二郎 田中 忠興 小野寺 久 梅野 光一郎 川口 祐二 望月 伸之 藤田 三雄 富樫 修一 川端 庸介 長川 寿一 高橋 眞一 木谷 隆 今井 正義 奥津 和男 内野 悟 北出 晃 山紫会会員一同 〔昭和34年卒業有志〕 末武 他 村形 重司 土門 勇治 野村 隆 野々村 正美	太田 昭 〔昭和37年短大卒業〕 橘 明良 庄司 俊雄 〔昭和38年卒業〕 近藤 勇夫 飯田 礼昭 小長谷 勝己 須加 敏夫 湯上 哲朗 杉浦 桂治 松宮 淳 田辺 経治 〔昭和39年卒業〕 馬場 浩 〔故〕藤井 忠信 宮城 準 三溝 憲治 小林 康男 那須 國興 藤田 克彦 前田 忠興 小野寺 久 梅野 光一郎 岩岡 秋雄 加藤 拓男 大林 研介 小野寺 久 〔昭和40年卒業〕 鍋島 章 山口 義彦 川端 実 津山 廣行 河野 武正 井口 靖史 工藤 良三 本間 靖夫 森村 文雄 佐竹 正紀 大船 喜八郎 岡田 昭治 鈴木 行二	井上 健夫 平塚 道矢 松田 邦彦 水越 啓蔵 桶谷 喜三郎 杉本 匡彦 舟本 秀男 柏崎 俊雄 平尾 一彌 〔昭和41年短大卒業〕 美前 真一 赤間 元 山口 昭久 井上 周司 木田 敏斌 岩元 洋 酒井 克臣 大谷 泰弘 石田 功 橋本 俊昭 西村 勝秀 河路 龍男 鈴木 光 柴田 錦浩 〔昭和42年短大卒業〕 高橋 幸雄 浜塚 紀生 畑谷 克也 畑谷 秀樹 山崎 嘉也 山本 雄太郎 清水 和美 柴田 譲 福田 基一 木村 貞行 〔昭和48年卒業〕 中村 利正 佐藤 敏光 熱田 洋子 佐竹 充興 荒井 啓一郎 前田 恵三 石橋 克己 小林 信三 沖山 茂	早川 好寛 島崎 憲明 清本 可南 齋藤 秀一 市原 康雄 滑川 正昭 工藤 正紀 江川 純史 酒井 康亮 今井 章文 島山 陽一 加藤 裕康 岡村 孝 小室 尊輝 吉江 庸男 三村 孝子 獅子の会有志 〔昭和45年卒業〕 山田 純一郎 阿部 哲明 紫田 葆 山口 達夫 長内 貴 高橋 三男 阿部 昇 宮本 宣司 山 洋美 田中 雅幸 池田 弘 宮崎 茂 平野 理衛 永井 尚子 中村 武司 山口 聖哉 針田 弘幸 東 弘毅 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	〔昭和45年短大卒業〕 山村 弘一 〔昭和46年卒業〕 真木 明 佐々木 和雄 佐藤 弘徳 安武 克樹 長谷川 光夫 児玉 義紀 日黒 義昭 杉田 博 岩崎 源吉 小浜 正寿 石井 裕 吉江 庸男 名達 博吉 茂木 元晴 〔昭和46年短大卒業〕 宮森 繁光 〔昭和47年卒業〕 江口 達夫 高橋 三男 阿部 昇 宮本 宣司 山 洋美 田中 雅幸 池田 弘 宮崎 茂 平野 理衛 永井 尚子 中村 武司 山口 聖哉 針田 弘幸 東 弘毅 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	高橋 眞理雄 嘉成 道夫 船木 良晴 河合 泉 安藤 寛 川島 一郎 十河 政則 上口 康 勝田 敏夫 市宮 敏 大竹 米次 賀茂 隆 〔昭和49年卒業〕 長原 文雄 大石 一良 小山 高史 大森 正昭 八東 達朗 梅沢 邦明 〔昭和50年卒業〕 谷平 政隆 高橋 三男 阿部 昇 宮本 宣司 山 洋美 田中 雅幸 池田 弘 宮崎 茂 平野 理衛 永井 尚子 中村 武司 山口 聖哉 針田 弘幸 東 弘毅 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	堤 幸徳 菊地 敏郎 池田 喜久雄 永井 健夫 三浦 和哉 佐竹 一起 新田 光三 上口 康 下野 美子 南澤 良夫 川村 健二 合場 直人 杉村 彰彦 天野 友嗣 広上 隆行 中下 博文 中村 弘治 安西 俊和 山本 賢司 永岡 弘一 石川 健 〔昭和53年卒業〕 吉本 淳一 鶴巻 泉 岩本 孝一 池田 浩之 滝 司 宮崎 茂 永井 尚子 中村 武司 山口 聖哉 針田 弘幸 東 弘毅 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	能登 睦雄 〔昭和55年卒業〕 柴田 和久 酒井 健次 山本 光一 尾松 英登 石崎 修久 山本 明彦 片山 幹夫 三宅 武吉 佐々木 明彦 幸坂 眞也 〔昭和55年短大卒業〕 掛川 琴美 小山 秀昭 〔昭和56年卒業〕 中村 弘治 安西 俊和 山本 賢司 永岡 弘一 石川 健 〔昭和53年卒業〕 吉本 淳一 鶴巻 泉 岩本 孝一 池田 浩之 滝 司 宮崎 茂 永井 尚子 中村 武司 山口 聖哉 針田 弘幸 東 弘毅 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	菊地 修一 〔平成11年大学院修了〕 市村 敏一 土井 義人 渡邊 広樹 永田 貞悟 及川 信幸 佐々木 彩乃 立原 一良 納谷 征憲 〔平成12年大学院修了〕 林倉 泰介 井出 昌 藤田 時人 中 爽 中川 隆 館 克也 小西 一郎 吉田 有志 柳引 拓慎 〔平成13年卒業〕 栗林 和徳 淡谷 英雄 樺沢 典史 八反田 康一 岩田 保子 近藤 朋子 〔昭和58年卒業〕 山本 昭明 相内 隆作 金子 義之 間山 公晴 國田 芳敬 中村 秀行 平田 泰稔 〔昭和50年短大卒業〕 関戸 英樹 前田 恵三 古川 哲朗 佐々木 高夫 秋光 実	〔平成13年卒業〕 工藤 秀雄 〔平成15年卒業〕 弓田 そよ香 〔平成17年卒業〕 大木 恒史 〔平成18年 OBS 修了〕 山本 文昭 〔平成19年夜間修了〕 山口 大輔 〔平成20年 OBS 修了〕 後藤 英之 古川 瑞枝 〔平成27年卒業〕 清口 潤 〔平成28年卒業〕 池内 智行 〔平成29年卒業〕 所 菜里
------	--	---	--	---	---	--	---	---	--	---	---	--	--

企業・官公庁・部活等の OB 会 (敬称略・申込順)	緑丘会道北支部 丘美会	5万7千円 5万3千円	平成7年卒庭球部 獅子の会有志〔昭和44年卒業〕	10万円 13万円	緑丘会札幌市役所支部一同 〔北区长 見上雄一 昭和59年卒業〕	17万4千円	山紫会会員一同〔昭和34年卒業有志〕	33万8千円
同意生以外の個人	田中 亜紀	相澤 富子	田野 有一	池戸 いつ子	柴田 和子			

創立百十周年記念募金 10万円以上寄附者ご芳名 (敬称略・卒年順・匿名ご希望の方は除く)

河村 寿郎〔昭和17年卒業〕	10万円	目景 宏和〔昭和33年卒業〕	10万円	平尾 一彌〔昭和41年卒業〕	10万円	秋光 実〔昭和48年卒業〕	300万円	池田 清治〔昭和59年卒業〕	50万円
荒木 俊彦〔昭和17年卒業〕	10万円	北村 久淑〔昭和33年卒業〕	30万円	西村 勝秀〔昭和42年卒業〕	10万円	圓兼 洋〔昭和50年卒業〕	30万円	小西 一郎〔昭和62年卒業〕	12万円
顧 哲夫〔昭和19年卒業〕	10万円	長川 寿一〔昭和34年卒業〕	10万円	田尾 延幸〔昭和43年卒業〕	50万円	池田 喜久雄〔昭和51年卒業〕	30万円	篠田 泰伸〔平成5年卒業〕	10万円
高崎 幸夫〔昭和23年卒業〕	20万円	高野 眞一〔昭和34年卒業〕	10万円	早川 好寛〔昭和43年卒業〕	100万円	永井 健夫〔昭和51年卒業〕	30万円	佐々木 彩乃〔平成12年卒業〕	10万円
後藤 和則〔昭和24年卒業〕	10万円	土門 勇治〔昭和35年卒業〕	100万円	島崎 憲明〔昭和44年卒業〕	100万円	三浦 和哉〔昭和51年卒業〕	10万円	納谷 征憲〔平成12年卒業〕	20万円
米林 栄夫〔昭和28年卒業〕	20万円	中野 孝一〔昭和35年卒業〕	20万円	平野 光彦〔昭和45年卒業〕	20万円	合場 直人〔昭和52年卒業〕	10万円	池内 智行〔平成28年卒業〕	10万円
海老名 節雄〔昭和30年卒業〕	10万円	柏谷 達雄〔昭和37年卒業〕	20万円	大橋 克也〔昭和45年卒業〕	10万円	天野 友嗣〔昭和52年卒業〕	50万円	柴田 清治〔昭和59年卒業〕	50万円
清水 卓治〔昭和32年卒業〕	300万円	庄司 俊雄〔昭和37年短大卒業〕	50万円	山田 二郎〔昭和45年卒業〕	300万円	中村 卓司〔昭和53年卒業〕	53万円		
横井 久〔昭和32年卒業〕	100万円	小長谷 勝己〔昭和38年卒業〕	20万円	下斗米 寛泰〔昭和45年卒業〕	20万円	岩田 研一〔昭和54年卒業〕	10万円		
鈴木 清〔昭和33年卒業〕	20万円	舟本 秀男〔昭和41年卒業〕	10万円	原 守〔昭和47年卒業〕	110万円	三宅 武吉〔昭和55年卒業〕	10万円		
計良 松宏〔昭和33年卒業〕	10万円	柏崎 俊雄〔昭和41年卒業〕	10万円	古川 哲朗〔昭和48年卒業〕	50万円	幸坂 眞也〔昭和55年卒業〕	10万円		

創立百十周年記念募金 法人ご芳名 (敬称略・申込順)

北海道マツダ販売株式会社 〔会長 横井 久 昭和32年卒業〕	100万円	岩崎印刷株式会社 〔相談役 廣海一四郎 昭和36年卒業〕	10万円	三菱地所株式会社 〔専務 岩田研一 昭和54年卒業〕	100万円	緑丘工房株式会社 〔社長 塚原敏夫 平成2年卒業〕	50万円
株式会社丸中しれとこ食品 〔社長 中村嘉成 昭和62年卒業〕	10万円	ブルドックソース株式会社 〔社長 石垣幸俊 昭和52年卒業〕	30万円	上川大雪造株式会社 〔社長 島崎憲明 昭和44年卒業〕	50万円	藤興産株式会社 〔社長 藤田三雄 昭和36年卒業〕	100万円
株式会社シー・ズ・ラボ 〔顧問 山田二郎 昭和45年卒業〕	10万円	大成建設株式会社札幌支店	5万円			株式会社テレビ北海道 ヤマノ印刷株式会社	5万円 10万円

第32回全国マシニング大会 北海道ブロック女子オープン級(19-29歳)優勝

はじめまして、ボート部副将の田畑です。

ボート競技はオールを使って水上を駆け抜ける速さを競うスポーツです。自身の身体がボートのエンジンになるので、強靱で丈夫な身体を作るべく日々努力しています。競技を始めて3年目になりますが、有難いことに道内では何度も優勝できるまでになりました。仲間にも恵まれ、大変ながらも充実した楽しい毎日を送っています。入学前に思い描いていた大学生活とはかけ離れていますが、ボート部で本当に良かったです！

これから大学生活を迎える皆さん、是非新しいことにもたくさん挑戦してみてください！きっと素敵な出会いや発見があるはずです。

田畑 七奈 (3年)・社会情報学科
※学年は令和2年3月時点



2019年度大学軟式野球選手権大会 北海道地区 春・秋リーグ優勝

はじめまして、軟式野球同好会 RANGERS 前主将の種崎です。

私たちは、軟式野球サークルとして毎週火、水曜日の13～17時で活動しています。北海道大学軟式野球連盟の1部に所属しており、昨年度は春、秋大会共にリーグ優勝を果たし全国大会に出場しました。

前述のとおり、活動自体も土日の練習試合なども含め週2～4日なので、アルバイトなどの予定も組みやすいと思います。

野球経験者、未経験者どちらも大歓迎です。私たちと一緒に楽しく野球をしたい方、一緒に頑張って全国を目指したいという方、是非お待ちしております。

種崎 壘 (3年)・社会情報学科
※学年は令和2年3月時点



島村楽器 HOTLINE2019 北海道エリア ベストギタリスト賞受賞

皆さんこんにちは。島村楽器様が主催するライブコンテスト HOT LINE2019 北海道大会にて、ベストギタリスト賞を頂きました藤島広大です。私はフォークソング部に所属しております。我々はフォークソング部という名前とは裏腹に、ロック・ポップス等ジャンル問わずにバンドを組み、バンド活動をしています。普段から大好きな音楽を演奏する側に回るのは、聴くのとまた違った楽しみがありますよ！HOT LINE でベストギタリスト賞を頂くに至った経緯の詳細は、私のツイッターにて公開しておりますのでご覧ください。@fujikot4

藤島 広大 (3年)・商学科
※学年は令和2年3月時点



What's「グリーンヒルプロジェクト」



たるわランド 2019 冬 ～あつまれ!雪だるま大作戦～

こんにちは小樽笑店です!

昨年12/15(日)、新体制となってから初のたるわランドを開催しました。当日はとても寒かったのですが、13時の開場から300名ほどの親子が遊びに来てくれました。みんなで手分けしてなんとか完成させた企画を、子供たちが「楽しい!」と言って何度もチャレンジする姿を見て、やってよかったと心から思いました。また、イベントをやることで親御さんとも直接話す機会が持てましたし、アンケート結果からも嬉しいお言葉をたくさん頂くことができ、改めて私達の活動の意味を再確認できたイベントでした。

私達は「小樽笑店に関わる全ての人を笑顔にする」という理念のもと活動しています。

今回のたるわランドでもたくさんの笑顔が見られ、大成功と言えるイベントだったのではないかと思います。今回の成果や反省を活かし、もっと小樽に必要とされる存在となれるよう、一人一人楽しみながら活動を続けていきたいです。



附属図書館が リニューアル・オープンしました!



新設! スロープ付き南玄関



増設! 多目的トイレ



移設(改装)! 貴重図書展示室



1911(明治44)年の小樽高商開校に伴い附設された図書室(翌年図書館)は、1967(昭和42)年に現在の建物(中央部分)になり、その後3度の増築・改修を経ましたが、内外壁・窓枠等の劣化・結露等が目立ち、照明・水道・ガス管・暖房器具等も省エネ対応の更新が求められたことから、2019年にこれらのライフライン更新のための改修を実施しました。そのため、資料内容や利用者向け設備の更新は限られており、サービス内容は改修前とほぼ変更ありませんが、滞在型図書館としての学習環境はより改善されておりますので、皆様のご利用をお待ちしています。

主な改善点をご紹介しますと、天井照明は全てLEDとし、1階書庫の通路照明は自動点灯化されています。

全館冷房化は叶いませんでしたが、環境改善のため2階のグループ学習室及び3階のプライベート学習室(3号館側)にはエアコンを設置しました。また、バリアフリー対策として、3号館側に南玄関とエレベーターを新設したほか、3階の男女トイレを全面改修し、それぞれに多目的トイレを増設しました。

その他、貴重書等の保全環境改善のため、特殊資料室の改装及び貴重図書展示室の移設・拡張を行っています。本学歴史展示資料、貴重図書・特殊文庫等の見学を希望される方は、2階カウンターまでお気軽にお問い合わせください(平日17時まで)。

お問い合わせ先: 学術情報課利用者支援係
(電話:0134-27-6541、メール:lib-uno@office.otaru-uc.ac.jp)

特別修学支援室では どのような支援が 受けられるのでしょうか

本学の特別修学支援室では、障がい（身体障がい、精神障がい、発達障がい等）のある学生に対し、修学上の支援を行っています。

最初に学生と面談を行い、学生生活における「困り感」（大学生活において何に困っているのか、どのように困っているのか）を確認し、授業担当教員や学内の他部署と協議を行って具体的な配慮内容を決定します。これまでに提供された配慮として次のようなものがあります。

☆身体障がいのある学生への支援の例

- 体調不良時の途中退室を許可する
- 教室移動に時間がかかることが予想される場合、遅刻して入室することを許可する
- 定期試験時に拡大した試験問題・解答用紙の使用を許可する

☆慢性疾患等のある学生への支援の例

- 授業の録音、授業スライドの撮影を許可する
- 定期試験の時間延長とその際に別室で受験することを許可する
- 体調不良が続いた場合、レポートの提出期限の延長を許可する

☆発達障がいのある学生への支援の例

- 授業の録音、授業スライドの撮影を許可する
- ゼミ担当教員に対し、障がい特性について情報提供を行う
- 外部の就労支援施設（北海道障害者職業センター、障がい者就業・生活支援センター、ハローワーク等）と連携し、就職活動に向けた協議を行う

障がいに関する相談は随時、受けつけています。特別修学支援室（3号館4階）に直接いらっしゃるか、メール（soudan@office.otaru-uc.ac.jp）でご連絡ください。



危険な飲酒から 身を守りましょう

2012年、本学で飲酒事故があり一人の若く貴重な命が失われてしまいました。私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。飲酒によって命や健康が脅かされないことがないように、危険な飲酒行動に対して毅然とした態度で **<NO>** を表明してください。

未成年者は飲まない、未成年者に飲ませない

こんな
危険性が

- **身体への影響**：脳の機能低下や性腺機能障害を起こしたり、アルコール依存症が短期間で発症します
- **事故・事件のリスク**：交通事故、転倒・転落、溺水のような事故にあったり、暴力行為などの犯罪に巻き込まれる危険性が高まります。

STOP! アルコール ハラスメント ーしない・させないー

飲酒の強要や飲まない人を侮辱することは人権侵害です。命を奪うこともあります。次のような行為は全てアルコールハラスメントです。絶対にしない・させないようにしましょう。

- **飲酒の強要**：上下関係・部やサークルの伝統によるはやし立てなど**心理的圧力**をかけて飲ませること
- **イッキ飲ませ**：**一気のみ、早飲み**をさせること
- **意図的な酔いつぶし**：**酔いつぶすことを意図**して飲み会を行うこと、傷害行為にあたる
- **飲めない（飲まない）人への配慮を欠くこと**：本人の体質や意向を無視して飲酒を勧める、**飲まないことをからかう、侮辱すること**、アルコール以外の飲み物を準備しないこと
- **酔ったうえでの迷惑行為**：**酔って絡む、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ**その他のひんしゅくな行為



保健管理センターでは「アルコールパッチテスト」とアルコールに関するDVDの放映を6月頃に開催する予定です（詳細は後日掲示等でお知らせいたします）。みなさんのご参加をお待ちしています。

学生を支援する2つの基金（事業報告）について

○教育振興基金について

皆様からご寄附をいただきました教育振興基金につきまして、令和元年度は以下の事業をしております。なお、教育振興基金の事業実績額は令和2年度の決算後にホームページ等でお知らせします。

■令和元年度

事業名	実施予定額
課外活動遠征補助金	300,000
学外学修推進のための地域連携ブリッジ教育プログラム学修奨励金	600,000
教育用資料購入経費支援	300,000
グローバル人材育成のための TOEFL 受験料補助事業	300,000
ギャップイヤープログラム奨学金	1,500,000
事情科目（スタディツアー）奨学金	2,250,000
海外危機管理サービス	300,000
学生の地域貢献活動への支援事業	300,000
計	5,850,000

○修学支援基金について

皆様からご寄附をいただきました修学支援基金につきまして、令和元年度は以下の事業に使用させていただきました。

■令和元年度（実績）

事業名		実施額
令和元年度前期分授業料免除特別枠事業	令和元年8月決定分（対象者7名）	368,320
令和元年度後期分授業料免除特別枠事業	令和元年12月決定分（対象者7名）	368,320
学内スチューデント・アシスタント事業		507,300
計		1,243,940

※修学支援基金による授業料免除特別枠事業は、各期における授業料免除申請者のうち、家計困窮度が基準を満たしているが成績要件により免除には至らなかった者を対象に審査を行い、各期の授業料の1/4の額を免除する事業です。



編集後記

小樽商科大学新体制発足により「学園だより」の題字が変わりました。

今号も学生、教職員の皆さまにご協力いただき、無事学園だよりが完成しましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。今後も商大生の活躍など様々な情報を発信していきますので、よろしくお願いいたします！（学生支援課）

小樽商大の新鮮な情報を配信！

ブログ「商大くんがいく！」



商大若手職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく！」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。
https://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai_blog/